

本日のプログラム

- 13:30 開会・市長挨拶
- 13:35 スタッフ紹介
- 13:40 事業内容及び事業スケジュールの説明
- 13:45 参加者の自己紹介
- 14:05 恵み野中央公園の概要説明
- 14:10 事例紹介(オブザーバー:愛甲准教授より)
- 14:20 現地確認
- 15:00 現地確認の整理
- 15:40 グループ発表
- 15:50 全体のまとめ・閉会

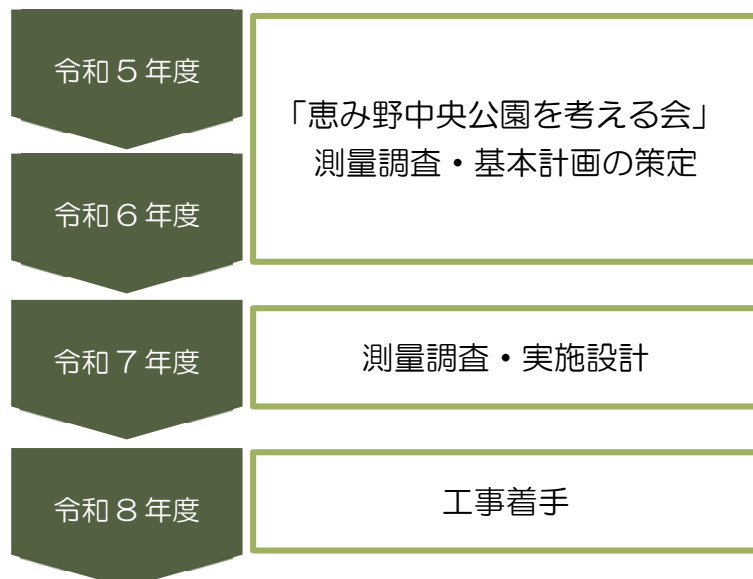


事業説明

本公園は、公園開設から約40年が経過し、施設の老朽化や社会環境の変化に対応した公園の役割や機能の見直しを考える時期を迎えています。

地域にお住いの皆さまが集まり、これからの恵み野中央公園のあり方について、基本的な考え方や施設改修方針などをまとめていきます。

▼事業スケジュール



ポイント

1. ワークショップとは

ワークショップとは、参加者全員が公園について考え、意見を出し合い、わからないことは助言を受けながら、自分たちの公園を自ら形づくっていかうとするものです。

今回についても、多くの皆さんが恵み野中央公園の改修内容や管理・運営について、アイデアを出しあい、協働で作業することで、より地域に根ざし、親しまれる場所となり、未永く利用していただけるのではないかとこの観点から開催されます。

また、参加者が意見を出しやすいように、少人数のグループに分かれて進めます。

2. 恵み野中央公園について

恵み野中央公園は、恵み野地区の中心を南北に貫くように位置する総合公園です。

【面積】約11.1ha
【開設】昭和59年



中央部に位置する大きな池と水路が特徴的で、野外音楽堂、野球場、庭球場などを備えており、開設から約40年が経過した今もなお地域住民に親しまれる場所です。



一方で、経年劣化による施設の老朽化や、過密な樹木による暗がりや死角など、魅力の低下が危惧されています。



問い合わせ先

恵庭市 建設部 公園緑地課 担当 江田
TEL33-3131

(株)環境緑地研究所 担当 太田、工藤
TEL(011)221-4101

恵み野中央公園を考える会

～第1回 恵み野中央公園ワークショップ～

日時: 11月6日 13:30~16:00

場所: 恵庭RBパーク3F 大研修室

ワークショップのスケジュール

本日

第1回 ワークショップ
・現地見学
・意見交換

R5.12

第2回 ワークショップ
・改修基本方針検討

R6.2

第3回 ワークショップ
・改修基本方針の取りまとめ

R6.5以降

第4回 ワークショップ
・改修基本計画検討①
第5回 ワークショップ
・改修基本計画検討②
第6回 ワークショップ
・提言書の取りまとめ

ワークショップ参加者への事前ヒアリングで頂いた主な意見をまとめてみました

【現在の利用状況や頻度】

■団体利用

- ・町内対抗の運動会などで使われる。・青空太極拳、青空図書館などが行われているのを見たことがある。・スキー教室で築山が使われている。
- ・低学年の生活科（理科・社会）で昆虫観察などをする。・特別支援学級の気分転換の散策などに利用している。・商店街のイベントで利用。
- ・放課後は多目的広場をボール遊びなどで利用している。・日常的に幼児の散策。・秋にどんぐり拾いをしている。
- ・年に1度、幼稚園のマラソン大会で北側の築山周辺の園路を利用している。・花火大会（多目的広場）やエコフェスの開催。
- ・ドローンの授業で多目的広場を、大型ドローンの場合は野球場を使用。・部活やスポーツの授業で利用。・就労支援で不定期の散歩。
- ・旧ゲートボール場をドッグトレーニングで利用。・トレーニングの犬の散歩で訪れており、週に1回は清掃活動をしている。
- ・町内会で旧ゲートボール場を使って盆踊りをしたり、公園内でウォークラリーを開催したりしている。
- ・図書館まで社会見学に行く時に通る。

■個人利用

- ・散歩や帰宅、図書館の利用時に通る。・テニスコートを利用している。
- ・小学生の息子がサッカーの練習で多目的広場を使う。・水遊びや川遊び。
- ・スキー教室で築山が使われている。・犬の散歩で利用する人を多く見かける。
- ・サクラやカモなど自然観賞。・バスケ部やバレー部が木陰で休憩する。
- ・生徒が図書館を利用した後に遊ぶ。
- ・放課後は多目的広場をボール遊びなどで利用している。
- ・子供や孫との散歩やスキー、そり遊びをするためによく訪れる。
- ・子供との散歩中や買い物帰りに北海道エコ・動物自然専門学校の飼育動物を観察することもある。

【既存施設の利用上で良いところや困っていること】

- ・広さがある。・自然が豊かなところが良い。・小川の眺めがよく、入って遊べる。・川沿いの園路がイギリスのコッツウォルズのように魅力的。・貴重なバイカモが生えている。・動植物とのふれあいができる貴重な場所だと思う。
- ・芝生の管理が良くなった。・図書館やアナベル刈りイベントがとても良い。
- ・全体的に老朽化している。・遊歩道がボロボロで狭いため、散歩がしづらく、自転車とのすれ違いも危険を感じる。・虫が多い。・あちこち剥げていて見栄えが悪い。・多目的広場や野外音楽堂周辺の劣化が著しい。・トイレが少ない。
- ・芝刈りの頻度が少なく、芝生を利用しにくい。・図書館との一体的な利用が出来ない。・駐車場が少なく、分散されているので利用しにくい。・照明灯が少なく、灯りがついてないものもある。・春先のカラス（鶯）が危険。
- ・野外音楽堂は現在未利用で、公園の位置的に勿体ない。・野外音楽堂に電源がない。音の反響が弱い。また、芝生部が排水不良である。・コンセントがない。・幼稚園児の滞在時間が短くなっている。・柵の格子間隔が広い。
- ・池への立入制限をしてない為、落ちる可能性があるのが不安である。・池と園路が近いところは目を離せない。・親水の石組みが危ない。・池の水が淀んでおり、流れ部はコケが密生しており危険。・わんぱく遊具が少ない。
- ・1～2歳が遊べる施設（砂場）がなくなった。・北側にある築山の利用が乏しいため、新雪が積もりすぎて冬にスキーやそり遊びが出来ない。・自販機がないので、学生が授業の際に何本も飲み物を持参するのが不便かと思う。
- ・敷地南側は樹木により見通しが悪く、暗がりがあるため防犯上好ましくない。・段差が多く、ベビーカーを押しにくい。・出入口が坂で手すりの無い階段なので危険。・緑と花が少なく、桜は弱っている。
- ・池の真ん中にある日本庭園は樹木が多いうっそうとしている。・日本庭園にある四阿は蜂が出るため、使用禁止になることもある。

【ワークショップ・再整備に期待すること】

- ・老朽化した遊具の修繕。・児童用遊具の充実。・栗沢ふるさとの森冒険ランドのような遊具広場。・騒音の問題でほとんど使われていない音楽堂とその一帯を多様に利活用できる場にしたい。・高齢者の活動にやさしい公園。
- ・地域の催しに寄与する空間や施設の配置。・安全・安心な公園。・WSも再整備も、あらゆる属性の人が集まることが理想。・整備された1980年代とは住環境が違うため、地域の意向を最大限活かした話し合いを望む。
- ・階層別人口なども把握しておくべき。・周回できる園路など、健康増進に寄与する施設整備は必要だと思う。・野外音楽堂に替わる新たな機能を検討して、若い世代の人たちが催しを含め利用できる空間づくり。
- ・樹木の間隔や樹種について検討が必要。・コンセプトを明確にする必要がある。・みんなが立ち寄りやすい公園になって欲しい。・恵み野を愛し、愛される場所にしたい。・綺麗な芝生と樹木がある作りすぎない公園が良いと思う。
- ・はなふるのような親水施設があれば良い。・修学旅行や実習に必要な宿泊施設を整備する。・ハード整備が整えばソフト（マンパワー）は対応できる。・どこまで本気で取り組めるかにかかっている。・機能転換も良いと思う。
- ・動植物・環境の保護を目的とした動物園（SDGs）。・宅地から園内へのアクセス部分をスロープにして欲しい。・ふるさと公園のようにきれいになってほしい。・カフェの併設、釣り堀など。・駐車場が中央部にありたい。
- ・急な雨が降った時に雨宿りできる場所があれば良い。・昼食が取れる場所をつくり、滞在時間を長くする。・花を増やす。和風のもよいと思う（ショウブ等）。・池の周縁にベンチが欲しい。・川を生かしたアスレチック。
- ・子供や女性が利用しやすいトイレ。・0～1才が安心して利用できるキッズコーナーみたいなものが図書館付近にほしい。・公園が有するアイデンティティは残してほしい。・ゾーニングがしやすいという特色を活かす。

【今後の活動・利用に関する可能性】

- ・秋～冬の公園利活用。・池の水を抜いてみる。・野外音楽堂の防音を強化して利用。・年1回くらいで街歩きをしながら街路樹や公園の点検をする。・気軽に参加できるボランティアの仕組みづくりをする。
- ・コインを投げ入れて祈ると願いが叶う「恵み野の泉」をつくり、集約金はみどりの維持管理に充てる。・中央公園にとどめず、恵み野地区全体につながりを持たせて活用していく。・グリーンインフラとして再整備、利活用。
- ・子供たちが自主的に考えて公園に携われるようになってほしい。・学びにもつながるような、中学生ができることをしたい（負担にならない範囲）。・合唱コンクールを公園で出来たらいいなと思う。・図書館と一体的な活用。
- ・町内会との連携。・花見スポットとしての利用。・北海道エコ・動物自然専門学校との連携（地域住民向けのドッグラン・しつけ教室等）。・ハイテクノロジー専門学校との連携。・森の幼稚園（旭川）。
- ・室内利用の需要が増えているので、屋根のある施設をつくり、活動の場を広げる。・小規模ステージを設けてクラフト展示、キッチンガーデン講習。・市民も公園の維持管理に参加できる仕組みづくり（ex.函館公園）。